

■太宰春台 儒学者。徂徠門下ながら、師の死後、道徳と経済のバランスをめざす独自の説を展開し、後世に大きな影響。

だざいしゅんだい

徳川綱吉將軍1680＝ 信濃国飯田城下で、藩士太宰言辰の子に生まれる。名は純，字を徳夫，通称弥右衛門，

媚養子の父は、元来平手姓で、織田信長の傳役を務め、その放埒な行動を案じて諫死した平出政秀の末裔にあたり、生涯、それを誇りとする一方、読書好きであった父の影響を受けて育ち、

堀田正俊暗殺1684＝ 4歳：

生類憐令始・1687＝ 7歳：父について孝経論語を習い、更にその他の書の講義も受けた。

日本永代蔵・1688＝ 8歳：父が同僚と争論して地位を失い、一家で浪人として江戸に出、

奥の細道・・1689＝ 9歳：

芭蕉+師宣没 1694＝14歳：但馬出石藩の松平氏に仕え、

生類憐令頂点1695＝15歳：

重秀勘定奉行1696＝16歳：朱子学者中野搦謙に入門、

吉保大老格・1698＝18歳：

病気を理由に辞職を願い出るも許されず、

・・・・・・1700＝20歳：勝手に致仕、藩主より、他家出仕禁止10年を申し渡され、

以後10年、京都に居住し、医業で生計を維持しながら、**「畿内を遊学、漢詩・天文学・地学・朱子学などを懸命に勉強、**

团十郎刺殺・1704＝24歳：富士山に登った後、上洛、**「伊藤仁斎の講義を聴いて人格にうたれる。**

富士宝永噴火1707＝27歳：

徳川綱吉没・1709＝29歳：大阪に入り、結婚。**「荻生徂徠が古文辞学を唱えたのを大いに喜び、**

冥途の飛脚・1711＝31歳：禁錮の期限が解けると、すぐに江戸に戻り、友人の紹介で**「荻生徂徠の塾に入門。詩文から儒学へと転向、安藤東野らと古学を講習し、自ら徂徠門の子路を以て認じた。**

乾山陶器店・1712＝32歳：儒者として、下総生実藩(森川氏1万石)に仕えるが、

和漢三才図会1713＝33歳：

西洋紀聞・・1715＝35歳：病気になって辞職、**「以後生涯仕官することなく、本格的に研究・執筆活動に入るとともに、江戸の小石川に塾を開き、多くの門人を集め、何人かの大名からも支援される。**

徳川吉宗將軍1716＝36歳：

塾から春日町が望めることから、春台と号し、次第に学者としての名声が高まり、本多忠統ら、若年寄3人から、それぞれ扶持米を贈られる一方、徂徠門人に、春台のように経学を主とするものと、服部南郭のように文辞を主とするもの2派があり、文辞を主とする者の中には、ややもすると文名を追うの余り、徳行を顧みない者もいたが、春台はどこ迄も経学を己の任として、徂徠の学を継述しようとするも、次第に違う傾向も見せるようになり、師である徂徠の人格についても、さまざまな批評をした。

・・・・・・1725＝45歳：

荻生徂徠没・1728＝48歳：「倭読要領」刊。**「この年、荻生徂徠が死去すると、その経学を継ぎ、詩文は服部南郭が継ぐ。**

梅岩心学始・1729＝49歳：**「名著『経済録』成り、日本に『経済』という語を広める役割も担った。**

・・・・・・1730＝50歳：「朱氏詩伝膏肓」成る。

享保大飢饉・1732＝52歳：**「『聖学問答』成る。**

・・・・・・1734＝54歳：親交していた内藤希哲がまとめた「医経解惑論」の校正を依頼されるも、

昆陽著書考・1735＝55歳：その途中で、希哲が急逝、哀悼する序文をよせている。最も厚く遇してくれていた西丸老中黒田直邦が死去したため、生活基盤が不安定になるも、ゆるがず、

悪鑄再開・・1736＝56歳：「聖学問答」刊。

ヰヰ船出没始 1739＝59歳：「論語古訓」刊。

・・・・・・1743＝63歳：

徳川吉宗隠居1745＝65歳：「斥非」刊。

菅原伝授十・1746＝66歳：「朱氏詩伝膏肓」刊。山県周南の紹介で、15歳の永富独嘯庵が来訪

義経千本桜・1747＝67歳：小石川で**「没した。**

ほかに「易道擾乱」「詩論」「独語」「紫芝園稿」20巻など、著書多数。